



MIKI  
INTERNATIONAL  
ASSOCIATION

VOL.53

2014. 11

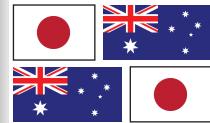
平成26年11月

三木市国際交流協会

## コロワ市学生訪問団(13名) 見聞を広めた10日間

Corowa Students' Delegation broadened their horizons in Miki, Japan

2014/10/1~10/10



姉妹都市のひとつであるオーストラリアのコロワ市から、訪問団13名が6年ぶりに三木市に滞在されました。一行は付き添いリーダーである副市長のポールミーゲル氏、ゲイルロー氏、キャサリンドーリング氏を始め、15歳から17歳の男子生徒4名と女子生徒6名でした。

10日間の滞在中、当協会がお世話をさせていただきました。ホームステイについては、当協会ボランティアの皆様にお世話になり、日本の生活文化に触れていただきました。歓迎式、歓送パーティ、送別式についても会員の皆様にご協力をいただきました。施設見学や学校訪問では、地元の人々と交流を深め、観光地の案内では、日本文化を味わっていました。

日々の生活を満喫していた生徒たちは、帰国の際には、「もっと三木にいたい」「もっと日本を知りたい」と口ぐちに話していました。多くの皆様にご協力いただき、有意義な10日間を過ごしていただくことができました。ありがとうございました。

MIA oversaw the visit of guests from Corowa Shire, Australia from October 1st to 10th. The visitors comprised of three adult leaders (Deputy Mayor Mr. Paul Miegel, Mrs. Gail Law and Mrs. Kathryn Doering) and 10 students (Alanna, Brianna, Bronte, Catlin, Georgia, Grace, Jack, Joshua Liam, Wil).

They experienced 10 day homestay with MIA volunteers. Also they visited several places such as schools, some factories, some historical spots in Kyoto and modern facilities in Kobe. Everyone seemed very happy mingling with local people at welcome ceremony or farewell party and ceremony.

"I want to stay more." "I want to learn more about Japan." They said a fond farewell to Miki people. Having a big cooperation, everyone who were involved in this sister city program was satisfied with outcome. I truly appreciate your kindness. Thank you very much.



### コロワ市訪問団を受け入れて

ホストファミリー 谷池 光希(高校生)

僕の家には、15歳のジョシュア君が後半の5日間ホームステイしました。我が家は外国人を何回もホストしていますが、どんな出会いがあるのかと会う前はいつもわくわくドキドキします。190cmの長身の彼との初対面の際、見上げるよう恐る恐る挨拶すると、にっこりと握手。緊張がほぐれました。

訪問団全員とそのホストファミリーの大所帯の京都バスツアーや。金閣寺の美に感動し、東映太秦村では“侍”にかなり興奮し、驚いたことに高額な摸造刀を購入する生徒もいました。ホストファミリーごとに行行動したフリーデーには、ラウンドワンや大型ショッピングモールで同世代ならではの交流を楽しみました。

今回はジョシュア君を受け入れ、またひとつ良い思い出ができました。「ジョシュア、楽しかったよ。ありがとう」の言葉を送り、見送りました。

2008年、私は三木市学生派遣団の一員としてコロワ市を訪れました。行く道中は、「しんどい。帰りたい」と言っていましたが、帰る時には、「帰りたくない」と言ったのを思い出します。現地でも感じたことですが、コロワ市の人は自然豊かな土地で育ち、純粋で人懐っこい人が多いです。

今回はホストファミリーとして、コロワ市学生訪問団を受け入れました。滞在中は、彼らの学校訪問や工場見学などの活動に同行させていただきました。三木の人々との交流や様々な経験をする中で、興味深いことはと聞くと、「文化の違い」と異口同音に答えながら、その違いを楽しんできました。

これをきっかけに6年前のホストファミリーと再び連絡を取り合うようになり、今回の訪問団全員と次はコロワ市での再会を約束しました。近い将来、彼らに会えることを楽しみにしています。



## 訪問団員 Jack Delaney (ジャック デラニー)

Six months ago, around thirty students from Corowa high school applied for a ten day trip to Miki city. Ten lucky students were selected, myself being one of that lucky few. I say lucky because this trip was an outrageously amazing experience, and gave me friends and memories that I will cherish for the rest of my life. It gave me a brief but beautiful knowledge of the Japanese culture, and opened our eyes to the style of living in the far East.

While in Japan, we visited many attractions and did lots of sightseeing, some of the major attractions being the world's longest suspension bridge and the golden temple. We visited things such as hardware factories which we discovered are an essential part of Miki, and visited schools, and got to attend a traditional Japanese tea ceremony.

Before we left, I think everyone's attitudes towards this trip were mixed, some feelings of anxiety and fear, these attitudes were gone by the time we touched down. We were all unsure as to the nature of the people, whether they were rude or kind. We soon found out that the Japanese people are some of the kindest people in the world, and did anything to accommodate us with the best hospitality. If something wasn't right, our hosts would go out of their way to fix it, and treated us like family. On my last night, my host brother Kentaro stayed up late, scrapbooking photos he had taken, and put them into a little album, to give to me upon departure as a gift. I will keep the book forever.

We thank everyone who made this trip possible, the hosts, our chaperones, the directors of MIA. One day we will surely come back. Thank you.

Thank you very much, Arigato gozaimashita!

6ヶ月前、コロワ高校の約30人が三木市学生派遣団に申し込み、私を含む10名の“ラッキーな生徒”が選ばれました。あえてラッキーと言うのは、この旅が驚くほど素晴らしいもので、人生を豊かにする友人、思い出をもたらしたからです。美しい日本文化の知識を少しですが得て、遠い東方の生活様式に開眼しました。

日本では、多くの施設訪問や観光をしました。世界一のつり橋や金閣寺、三木市の金物工場や学校、伝統文化のお茶席など。

訪日前は、日本人は不作法、それとも親切なのかなどと心配と不安でいっぱいでしたが、すぐに吹き飛びました。日本の人々は世界で一番親切で、心のこもった歓待をしてくださるのだとわかりました。**丸木ファミリー**は、家族の一員として接してくださいました。最後の夜遅くまでホストブラザーの健太郎さんが滞在中の写真をアルバムにして、帰国際、プレゼントしてくださいました。**一生の宝物**です。

お世話をしてくれた皆さん、ありがとうございました。いつかきっと再訪問します。



## 訪問団員 Bronte Munro (ブロンテ マンロ)

My highlights of the trip were visiting all the different schools and being able to see the differences between Corowa High School and the schools of Miki city also making friends with the students. Another highlight was the day we spent in Kyoto at the golden temple and the movie studio with our host families. I was surprised to see how small some of the cars are in Japan.

Another highlight was spending time with my host family and getting to know them and their culture. There are many cultural differences between Australia and Japan the biggest one being language which was a barrier when trying to have conversations with different Japanese people. At the entrances (called a genkan) of houses I was taught to remove my shoes and place special slippers on and before each meal everyone at the dinner table says "Itadakimasu" and after everyone says "gochiso sama deshita" both of these things aren't done in Australia and it was interesting to learn. While in Japan we did many traditional culture activities, we learnt how to do calligraphy, had a tea ceremony and we all even had the chance to wear Yukatas. Our schedules were very busy and we had the chance to do so many great activities and see great attractions.

The Noda family who made my trip possible by being my host family made me feel so welcome and I have many great memories with them that I will treasure forever. Whilst in Japan I celebrated my 16th birthday and my host family gave me cards, gifts and a wonderful dinner. I can't think of a greater way to spend a birthday than in Japan surrounded by amazing people.

I speak for everyone when I say how grateful we are to have this experience and we would like to thank, the hosts, our chaperones, the directors of MIA and everyone that we met on our stay for making this a once in a lifetime experience.

Thank you very much, Arigato gozaimashita!

旅行で素晴らしいのは、**小学校から大学までの学校訪問**でした。コロワ高校との違いを知ることができましたし、三木市の生徒と友達になりました。また、ホストファミリーとのバス旅行では、京都旅行の金閣寺や東映太秦映画村に行きました。日本の車が小さくて驚きました。

ホストファミリーとの異文化交流は有意義でした。両国間にはさまざまな違いがあり、特に言葉の壁が交流を困難にしていると思いました。玄関で靴を脱ぎ、スリッパに履き替えること、食前には「**いただきます**」、食後には「**ごちそう様でした**」と言うことなど、オーストラリアにはない習慣ですので、興味津々で習いました。書道、茶道、さらには浴衣の着用など伝統文化も楽しみました。盛りだくさんの内容で忙しかったですが、多くを学びました。

**野田ファミリー**の大歓迎を受け、一生の宝物となる思い出ができました。滞在中に迎えた**16歳の誕生日**には、カード、贈り物や豪華な食事でもてなしてくださいました。日本で素敵なお人々に囲まれ、誕生日を過ごせるなんて思ってもいませんでした。

この経験は素晴らしいと声を大にして言いたいです。この訪問に関わってくださった方々、**一生に一度の素晴らしい経験**にしてくださった三木の皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

◀ Jack(左)とBronte(右)別所小で1年生と一緒に給食

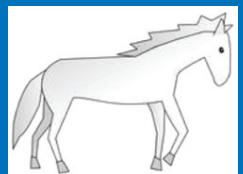


## キッズイングリッシュに参加して

2014/7/19  
中央公民館

### 上田 優菜（自由が丘）6年

「英語に触れ合う良い機会だよ！」という公民館の英会話サークルの先生のすすめがきっかけで参加しました。最初は、ゲームをしたり、スーソーの白い馬の話を聴いたり、その後モンゴルの方の演奏を聴き、最後にみんなで劇をしました。特に心に残ったのは演奏でした。日本と違う独特な楽器の音色が気にいりました。楽しい1日でした。



スーソーの白い馬



馬頭琴



### A1291◆立脇 真理子（アシスタント歴3年）

キッズイングリッシュは、児童英語に関わっておられる方々の活動を間近で見せていただける貴重な機会であり、今年も楽しみにしていました。

**モンゴルの国際理解の話や寸劇挑戦**の時間もあり、盛りだくさんな内容でした。民族楽器に触れる時間もあり、子どもたちは興味津々でさわっていました。

ランチタイムの“**plate, please.**”から始まってパン、チーズ…と必要なものをALTに英語で伝え、“**Thank you.**”と言しながら受け取っていくとマイサンドイッチが出来上がるというアイデアは、とても参考になりました。自分の英語が伝わった喜びに加え、サンドイッチという形で完成させることができたという成功体験は、子どもたちに大きな自信となるのではないかと思いました。

クロージングでプレゼントのバッグにALTのサインをたくさん集める子どもたちの楽しそうな表情もとても印象的でした。



## サマーイングリッシュレッスン

2014/8/13  
中央公民館

### A1416◆杉本 咲絵

「Can I have your name?」 「Do you have any pets?」とお互いに質問し合うことから、このレッスンは始まりました。私にとって、とても濃い一日となりました。

中でも印象に残っているのは、午後からのグループワークです。新しい発明品を考えたり、自分が大統領になったつもりで政策を考え演説したり、日本食を紹介したりと英語を使って表現することが本当に楽しかったです。私たちの班は「**Dreamy Pillow(夢枕)**」の発明。寝ている間に自分の見たい夢が見られるわくわくで幸せな枕です。元気いっぱいにこの商品を宣伝でき、好評をいただき、嬉しさや楽しさを感じました。

英語表現活動のみならず、イギリスに関するプレゼンテーションやランチタイムでの会話を通して、文化を共有することもでき、とても充実した時間となりました。





私たち日本人は、ブラジル移民のことを  
もっともっと、知らなければならぬ。  
そして、私たち日本人は、  
ブラジル移民のことを決して忘れてはならない。

「ブラジル移民の足跡を辿る」より



夢と希望を乗せて…一路ブラジルへ(1962年ごろ神戸港第4突堤)

1950年代の若い航海士のころから、後進を指導される今日に至るまでの海にかける熱い思いを語っていただきました。

前半は「知っているようで知らない海と船の話」として、船の種類と大きさ、そして、巨大船の海難事故についてでした。豪華客船、貨物船、コンテナ船、巨大タンカー、様々な大型船の紹介があり、現在世界3位の造船量を誇る日本の海運の重要性について再認識しました。また、過去に起きた大事故の救助の様子を解説いただき、当時の船長としての責任と誇りを感じました。

後半の「ブラジル移民船さんとす丸の思い出」では、夢を求めて移民船でパナマ運河を通過し、40日以上かけてブラジルに渡られた人々について紹介されました。入植当初は、想像に反し、荒地の開墾や重労働を強いられたこと、困窮した生活の中で、現地の言葉がわからない者同士が支え合ったこと、日本文化や習慣を継承することが生きがいであったことなどを知ることが出来ました。

翻って、三木市にも日系ブラジル人（逆移民）を含む約300人のブラジル人が住んでおられ、社会参加を目指して日本語習得に励んでいる方もおられます。グローバル化が進みボーダレスになりつつあるこの世界で、異文化交流を通して共生する地域作りが必須であると思いながら、講座を閉じました。

## ことばの教室新講師紹介 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

9月から英会話クラスを担当しています。どうぞよろしくお願いします!

### 英会話実用クラス 月曜日

氏名 Cobb David  
コップ デービッド

出身 アメリカ  
ニューヨーク州

専攻 国際関係学



### 英会話中級クラス 火曜日

氏名 Cuthbertson Emma  
カスバートソン エマ

出身 イギリス  
サリー州

専攻 中等理科教育PGCE  
(教員研修) 課程

### 英会話初級Aクラス 水曜日

氏名 Morgan Devon  
モルゲン デヴォン

出身 カナダ  
ノバスコシア州

専攻 フランス語

教育センター  
2014/7/28

## ことばの教室日本語クラス 日本語ボランティア研修会

講師

A1177◆岸本 ひとみ (ヒューマンアカデミー日本語教師養成講座修了)



### 参加ボランティアの気づき

ひと手間かけた準備

ボランティア間の連携の必要性

繰り返し練習の重要性

学習者の反応に留意しながら、独りよがりな言動を控える

日本語クラスには、約40名の外国人学習者と彼らをサポートする30名ほどのボランティアが在籍しています。ボランティアの皆さんのご支援の下、ほぼ1対1で学習していますが、学習者の上達に影響するボランティアの指導力アップも重要な課題です。

今回は、有資格者の日本語ボランティア・岸本ひとみさんによる、中国人研修生を対象にしたモデル授業を見学しました。レッスンではテーマや文型を絞り、実物や写真などを使用した「導入」、フラッシュカードなどを利用した「応用」、そして、学習者同士が会話をする「定着」へと続きました。整然とした展開で、学ぶことが多くありました。

学習者をも上回るボランティアの方々の熱意を感じた意義のある研修でした。お互いが気持ちよく学習できる環境作りのため、今後も研修を継続したいと考えています。

# People Like Us ～三木市で共に生きる～

法務省在留外国人統計（2013年度）によりますと、国内の外国人数は約206万人、兵庫県内には約10万人、そして三木市内には約100人です。これらの人々の目的は、結婚や仕事、留学などさまざまです。その中で母国でも日本語を学習し、流暢に会話できる人は一握りで、大多数は各地の公的、民間施設で学習するものの、言葉の壁に苦しみ、問題を抱える人たちです。そんな人たちにとって病気や災害などの緊急時に意思疎通ができないことは、二重の苦しみであろうと推察します。そこで、共生社会を目指して、市民の方々にも外国人の困難を理解していただこうと、防災と医療に関するセミナーを実施しました。



## 外国人への防災意識啓発～「やさしい日本語」の視点から～

教育センター  
2014/7/5



出席者：防災リーダー28名  
日本語ボランティア15名  
在住外国人2名、その他10名  
計45名

講師 「やさしい日本語」有志の会 杉本 篤子

ここ数年、三木市に大きな自然災害は発生していませんが、文化や言葉の違いにより災害弱者になりうる外国人には、日ごろから防災を意識することが必須であると考えます。外国人向けのパンフレットなどがありますが、すべての言語に対応することは困難です。そこで、\*やさしい日本語を使用し、平易な短文で要点を伝えることにより、多くの外国人が災害時の通知や避難所の案内などを理解できるメソッドについて研修しました。

### \*やさしい日本語

普通の日本語よりも簡単で、外国人もわかりやすい日本語のこと。

地震などの災害が起ったときに有効なことば。

日本語能力検定試験3級程度

基本的な文法・漢字（300字程度）・語彙（1,500語程度）を習得し、日常生活に役立つ会話ができる、簡単な文章が読み書きできる能力。  
日本語を300時間程度学習し、初級日本語コースを修了したレベル。  
文字表現でいうと、小学校の2、3年生で習う程度の漢字と平仮名およびカタカナによる表現。

## 地域医療における医療通訳の必要性と重要性 ～あなたの病院に「外国人」の患者さんが来ました～

北播磨総合医療センター  
2014/8/1

講師 (NPO) 多言語センターFACIL代表 吉富 志津代

FACILは、医療機関と外国人患者を繋ぐモデル事業を2004年に開始、現在も神戸の4病院に通訳を派遣されています。日本語が理解できる外国人患者でも、しくみがわからず、医療者との信頼関係を築けず、誤解が生じることもあります。セミナーでは実際に通訳が入り、診療がうまくいった事例などを紹介されながら、医療通訳後進国といわれる日本の現状を紹介されました。

当協会にも医療関係から通訳の依頼があります。「ビサヤ語（フィリピン）ができる人はいますか」「神戸の病院を紹介するので、同行通訳をお願いしたい」など。また、外国人への聞き取りでは「母親の妊娠出産のため学校を休み、同行通訳をしている」「母国での手術を勧められ、子どもを休学させて帰国した」「工場内の事故で緊急搬送されたが、医療関係者の説明が十分理解できず、居住地区の病院に転院するまでに時間がかかり、未だにリハビリ中である」「保険制度がわからない」など。病気はプライバシーなので、友人や同僚にも話さないという外国人もいて、通訳の存在は大きいのです。

人権の視点からも、安心して医療を受けられる地域社会を目指し、早急に環境整備が望まれるのではないかでしょうか。

出席者：医療関係者40名  
国際交流協会関係20名  
一般11名  
計71名



# ことばの教室日本語クラス「防災に関する研修・実技」に参加して

教育センター  
2014/7/14

## 三木市防災リーダー会会長 和田 光男

私たち三木防災リーダー会は、外国人への防災研修、実技に初めて参加しました。日本語での説明が理解してもらえるのかと心配でしたが、実施訓練が始まると、**応急担架の作り方、レジ袋や段ボールを使用しての応急手当の説明を熱心に聞き入っておられました。**日本語ボランティアの通訳もあり、何とかわかつてもらえたと思います。今後、災害に遭われた時には、この度の訓練を思い出し、役立ててほしいと思います。



## 三木防災リーダーの会会員・ひょうご防災特別推進員 長谷田 克彦

この研修を通して日本語クラスの外国人学習者の方には、身振り手振りである程度は理解していただいたとは思いますが、実際の災害発生時や非常時に、迅速な伝達や行動が出来るかどうかなどの疑問が残りました。

日本人の方と結婚され永住される方、留学や就労目的の方などいろいろな在住形態の外国人の方がおられます、「一人になった時に…」を考えると、地域の「避難場所の位置」や「緊急連絡先」「いざという時に家族以外に頼れる方」などを確認していただく必要があるのではと思いました。

伝える側の工夫も大切ですが、外国人の方も、災害や緊急時に自身が外国人であること、そして、協力が必要であることを周りの人々に伝える方法を普段から考えておくことが大切なのはと感じました。

偶然にも、小学校PTAで一緒に活動した外国の方がおられたので、居住地域周辺の外国人と避難所や防災防犯上危険な個所がないか、また、外国人同士の意見交換など、地域に特化した交流も大事にしたいと思いました。

## 三木防災フェスタに参加して

総合運動公園  
2014/9/28

### 佟愛春（中国出身・学習歴3年）

台風で倒れた家の中のが人を運ぶ訓練に参加しました。毛布を使って6人一組で動けない人を運びました。重くて少し大変でしたけど、みんなで力を合わせて頑張りました。災害の時に役立てたいです。



### ニューホンチュン（ベトナム出身・学習歴2ヶ月）

私は初めて防災訓練に参加しました。救急車、消防車やヘリコプターを見ました。たくさん人がいました。日本語クラスの仲間と一緒に地震でけがをした人を運ぶ練習をしました。最後にバッグをもらいました。とてもおもしろくて役に立ちました。

訓練の時、6人で1人を運びました。足と手にけがをしています。救急車の中に人がいました。早く運びました。とても役に立ちました。次も参加したいです。

## みっきい夏まつり 2014/8/23



## ごみ収集についての説明会(三木市生活環境課) 2014/10/27

2015年1月に施行される**指定ごみ袋制導入、および収集日の変更**についての説明を受けました。

来日直後の外国人には、実物を使用してごみの分別をわかりやすく解説していただきました。ここで得た情報が彼らを通して近隣の知人、友人にも伝わり、スムーズな実施に繋がることでしょう。



三木市家庭ごみの分別と収集日のチャートの翻訳にご協力いただいた「ことばの教室受講生」のみなさん

原田パオラ・片岡紘一・寺田ゆみ（スペイン語）

市川佳佳・支運蒙（中国語）

窟清子（韓国語）

## AED講習会 2014/9/22

### 救命入門コース

（三木市消防署・救急救助課・救急係）

成人の心肺蘇生法やAEDの取り扱いを学びました。外国人学習者さんも母国にも設置していることはご存知でしたが、初めて講習に参加し、使用方法が理解できたようです。

## 金物まつり協賛

## 国際チャリティバザー＆バザール

2014/11/2

今年は、市役所北駐車で国際チャリティバザーを催しました。午前中はあいにくの雨と会場の変更で客足は遠のきましたが、ボランティアの皆さんやセネガルを支援するNPO法人のボックジャンバル（協会会員）のご協力で成果を上げることが出来ました。皆さまのご厚意は、海外で必要とされているところに寄附させていただきます。ありがとうございました。

寄付金総額  
**160,895円**



ご協力いただき、  
ありがとうございました

## 文房具一万点プロジェクト

～自宅で眠っている文房具をセネガルの子どもたちへ～

NPO法人ボックジャンバルの呼びかけに当協会会員の皆様をはじめ、三木東高校、自由ヶ丘中学校、神戸市立葺合高校の生徒の皆さんにご協力をいただきました。遠い異国地で一本の鉛筆、一冊のノートがもたらす子どもたちの笑顔を想像すると、嬉しくなります。みなさまの善意に心より感謝いたします。ありがとうございました。



# クリスマスパーティー Xmas Party in MIKI

ゲスト：  
太神楽曲芸師  
豊来家玉之助

12/7(日) 13:00～15:30  
中央公民館4階・大ホール

## 第4回国際理解講座

*COOL MIKI*

英語de落語

日本語de発表



2/8(日) 13:00～16:30  
三木山森林公園・音楽ホール

## 編集あとがき



4月以来、総会や国際理解講座などの恒例事業のほか、地域で生活する外国人を支援するための防災や医療通訳などのセミナーを催しました。同時にみっきい夏まつりなどの市の行事を、FMみっきいによる放送で外国人に周知しました。また、6年ぶりの姉妹都市コロワ市学生訪問団の受け入れについて、ホストファミリーや施設、学校訪問の際に多くのご協力をいただきました。金物まつり協賛国際チャリティバザーでは、物品提供や会員ボランティアのみなさんにお手伝いいただき、善意の净財を集めることができました。心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

76.1 MHz

FMみっきいによる多言語放送をしています  
11月と12月は、  
毎週火曜日 12:15



ごみ収集についての新情報を  
英語・中国語・スペイン語等で  
お知らせします。



## 第3回国際理解講座 「HAFU the film ハーフ」 映画鑑賞

日本人初！

ハーフの女性監督2人による、  
ハーフたちの本音に迫った  
ドキュメンタリー映画



新しい世代の日本人に出会おう

1/18(日) 13:00～15:00  
教育センター4階・大研修室



## 国際料理教室 「中国の家庭料理」

2/22(日) 10:00～13:00  
南交流センター・調理室

## ことばの教室 「ジョイントミーティング」

3/1(日) 10:00～13:00  
教育センター4階・大研修室

## 編集・発行

三木市国際交流協会

Miki International Association

〒673-0492 三木市上の丸町10-30 (市民ふれあい部 市民協働課内)

TEL (0794) 89-2318

FAX (0794) 82-9755

[E-mail] kokusai@city.miki.hyogo.jp

[ホームページ] <http://www.city.miki.hyogo.jp/>